日本共産党あきる野市委員会発行

あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL＆FAX 558-0718

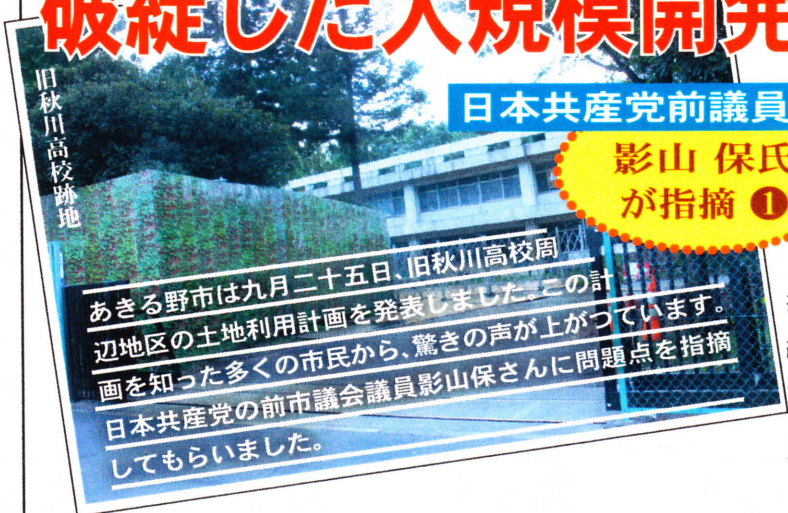
住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2009.11.8　No.520（毎月２回発行）

旧秋川高校周辺地域の土地利用計画

破綻した大規模開発をまたまた計画する臼井市長

日本共産党前議員
影山 保氏
が指摘 ❶



あきる野市は九月二十五日、旧秋川高校周辺地区の土地利用計画を発表しました。この計画を知った多くの市民から、驚きの声が上がっています。日本共産党の前市議会議員影山保さんに問題点を指摘してもらいました。

秋川市長時代に失敗し、借金の山

利子払いだけで八億円も税金を

臼井市長は秋川市長時代、全て市の幹部職員で構成する土地開発公社を立上げ、企業誘致のため多額の借金をして、山や畑を買いあさり大開発計画に着手しました。

バブルがはじけ企業誘致は失敗し、公社の土地はほとんど売れず、残ったのは借金の山、その利息払いだけでもあきる野市は、この六年間に市民の税金を八億円も払い続けています。

どこにも売れず「塩漬け」となっている公社所有の山を、「恵の森構想」といって新たに三十一億円を市が借金をして買い戻し、公社の借金を減らすというばかげた市政運営をつづけています。

市民の声を形だけ聞く態度

市は、企業誘致の計画があるということを十月一日の広報で市民に知らせ、「内容を知りたい市民はインターネットで見て十五日までに市に意見を」とあります。

圧倒的な市民に内容を知らせないまま、十五日間で意見を募るという「形だけ作ればいい」という態度です。

大規模開発の内容を市民に知らせるよう声をあげよう

合併前の秋川市は、菅生の山一体を菅生インダストリアルパーク（森の中の工場群）構想と位置づけ、大規模開発を計画し、失敗し借金の山を築きました。

その借金はあきる野市に引き継がれ、財政困難の要因になっています。

再びこの様な事にならないため、市民が声を上げ、計画の全貌を全市民に明らかにするよう。市に求めようではありませんか。（続く）

おばらしき こどもぐらし

たばた　あずみ

こどもの頃お母さんのハイヒールを履いてみた人は少なくないはず。わたしもそのひとりですが、その後ハイヒールを履かないまま今にいたってしまいました。この度スーツを着る機会もできて、ようやくハイヒールなど買うことになりました。

はたして、むすめが目をきらり。ちびも、10歳のむすこまでが「ちょっとかして」「はいてみていい？」履いてみてどうするんだ、エナメルのパンプスなぞ！あげく「わたしが大きくなったら、これちょうだい」ちびまで「おれもっ！」。

大きくなったら買ってあげるよ…ちび、あんたにもね。

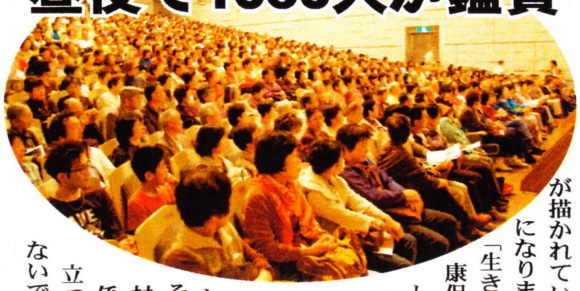
（09.11.8）

連絡先は☎550-6674

いのちの山河 上映会盛況

10月17日・秋川キララホール

昼夜で1050人が鑑賞！



スクリーンに想う

草花　木崎秀治

「豪雪・貧困・多病」の沢内村ではリヤカーに医療器具を乗せ村民の検診に廻った状況は、地域格差という大きな隔たりを感じました。今日ほど医学が発達していない時代と、貧困の村を考え合わせ「命に格差はない」として村民の健康保持に突き進んだ理想には尊いものがあります。

戦後、国民に最も恐れられた病気が結核です。沢内村の多病の原因に結核が描かれていないのが気になりました。

「生きる」根本に健康保持があるとした深澤村長の理念が、困難を乗り越え老人と乳児の負担無料化を実現したのですが、それは村長と村民の信頼関係の上に成り立ったものではないでしょうか。

野良望

◆米国生まれの作家ヘンリーミラーがパリで貧乏な生活を送っていた頃、ロンドンへ旅をした。もう一度英語を話す人の間に身を置きたい、そう思いついての旅だったそうだ。人が旅を思いついた時、何か一つ目標を掲げるのだろうが、私は異質なものに巡り会いたいという曖昧なものでしかない。◆冬に降った雪が春になれば麓の湖へ流れ、湖のほとりの集落を見れば湖と人との関わりを考える。祠の石仏には時代と人との関わりがあり、舟で川を下れば千石船の記憶を呼び起こす。自然も史跡も食物も長い年月から生じた人との関わりがある筈だ。◆瀬戸内海に面した広島県福山市の鞆の浦は、江戸期の古民家が軒を並べ、灯台の役目を果した常夜灯も残る港町です。この町で交通渋滞を緩和するため沿岸に埋立と道路建設を県と市が計画、住民が景観を破壊するとして訴訟、判決は建設差し止めの画期的なものでした。◆壊すのは一瞬、造り上げてきた歴史は百年千年です。人と自然が関わり造り出した異質な文化に会いに行きたい。（木崎）

「痴漢冤罪・沖田国家賠償訴訟」判決迫る

勝利めざし、沖田さんを励ます集い

国家賠償訴訟の差し戻しの高裁判決が11月26日に迫る中、必ず勝利判決を勝ち取ろうと、救援会秋流支部が「沖田さんを励ます集い」を10月31日、ルピア3階研修室で開きました。

救援会三多摩総支部の生江事務局長が沖田の最高裁判決から潮目が変わったこと、今度の判決で「勝ちきる」ために判決日まで要請はがきと署名の集中をと訴えました。原告の沖田光男氏は事件の発端、不当な逮捕、不法な拘留、検事のひどい取り調べを告発。10年間たたかってやっと司法の変化が見られるようになったとのべました。有美夫人も、物心両面からの大変さとたたかいの中で多くのことを学び、自分が変わっていったと話しました。

30人を超す参加者からは、沖田氏夫妻の苦労に応えよう、署名を広げ、要請はがきをみんなで出そうとの意見が次々と出されました。

福島で松川事件60周年記念集会開く…

秋川流域から5名が参加！

10月17日、18日福島大学で行われ、秋川流域から国民救援会の5名が参加した。

当時の被告はみんな高齢になり、集会に参加できたのは数名でした。羽村から元被告の岡田十良松さんが元気に参加、行きの車中で「松川事件の闘いの意義」を話した。

集会では、当時弁護団だった松本善明さん、鈴木信元被告、家族たちの話が感動を呼んだ。

感動に満ちた2日間で、福島大学のキャンパスが忘れられない。

（松平記）

絵手紙／瀬川和子さん・牛沼在住

川柳

デフレ気味なんとか生きてる年金者　蕎麦湯

詰め腹を切ってご苦労社長さん　蕎麦湯

この市長失政恥じぬ談致病　松籟坊

負けたのにのさばる自公あきる野で　松籟坊

10月21日午後

たばたあずみ新人議員街頭に打って出る！

たばた議員は、南支部と議会報告をハンドマイク宣伝で、雨間、秋留地域で行いました。

玄関先で聞き入る人や、拍手を送ってくれる人もあり、選挙後の党への期待の大きさを感じた宣伝行動でした。

俳句

〈季語＝「露」〉夜に草木や地面が冷え、水蒸気が凝結して水滴になるものを露といいます。しかし俳句では、はかないものを譬えて「露の身」「露の世」などと使いますので、要注意の季語です。

さざなみに朱色落して秋夕日　（照代）

雨風に耐えきし柿の熟れにけり　（静子）

煎じ薬戸口に匂ふ良夜かな　（つや）

青虫を露もろともに弾きけり　（勝代）

夫帰るつるべ落しの夕支度　（和恵）

芋の実の露もて墨を磨りにけり　（るり子）

草の端の露一閃のしじまかな　（淑子）

ねこじやらし昭和を生きた手になじみ　（かほる）

黒船の渡来古文書秋灯し　（秀治）

歴史探訪　第100回

地名考・余談①

JR五日市駅

旧秋川市に二十ある大字の地名について、大方終りましたので一休みです。大方というのは、全大字の内「秋留」と「秋川」については「阿伎留」の項で紹介し、「二宮」については「二宮神社」「唐沢武一さんの話」で紹介してありますので、この二つの大字を省略したという事です。

地名の由来や成り立ちに意外性があり、面白いと自分でも感心してしまうのですが、自宅近くの地名でさえ深い意味を持っている事に改めて気付くので、まして往き来のない遠方の地となると呼称も知らず、なおさらの感を深くしています。公図に示す小字は大字の中に平均二十程あり、由来を調べると面白いのですが、限りなく長文になりますので僅かに留めています。地名としての固有名詞にどのような意味があるのか、また固有名詞を形成する一つの漢字が何を意味しているのか、ここを理解すれば地名の成り立ちを理解できるという事でしょう。様々な地名の由来は、「阿伎留」のようなあきる野の独自性を持つものや、全国に共通して成り立って何ケ所も存在するものと二つに分けられるような気がします。

引き続き十九ある旧五日市町の大字を続けたいと考えています。但し大字の位置や面積、集落の密度、山岳・丘陵の程度など無知に近いので車で一度走ってみようかと考えています。（続く）

草花・木崎秀治